

第4回 第6次日野市特別支援教育推進計画策定委員会議事録

1. 日 時 令和5年1月24日（火） 午前10時
2. 場 所 旭が丘小学校 図書室
3. 出席委員 小貫委員、山口委員、石川委員、黒澤委員、諸星委員、阿部委員、中田委員、高原委員、宮崎委員
4. 欠席委員 大西委員、比留間委員、長崎委員、馬場委員
5. 事務局 村田教育部長、萩原発達・教育支援課長、吉沢発達・教育支援課長補佐、木暮発達・教育支援係長、宮崎指導主事（特別支援教育担当）、福地主事（発達・教育支援課）
6. 傍聴者 1名
7. 議 事
 1. あいさつ（山口委員長）
 2. 協議・意見交換
 - (1) 「第6次日野市特別支援教育推進計画（案）」のパブリックコメントの対応
【資料1】
 - (2) 第6次日野市特別支援教育推進計画（案）について
【資料2】
 3. 今後の対応について
8. 会議資料
 - ・「第6次日野市特別支援教育推進計画（案）」のパブリックコメントの対応
【資料1】
 - ・第6次 日野市特別支援教育推進計画（案）【資料2】
9. 議事内容

（事務局）

おはようございます。本日はお足元が悪い中、お集まりいただきましてありがとうございます。それでは時間になりましたので、始めさせていただきます。

初めに事務局より、何点かございます。

初めになんですけれども、正留委員につきまして11月末を持って、教育センター長を退任されたということで、代わりに長崎委員の方が教育センター長を兼ねるという形になりましたので、長崎委員の方が務めるという形になります。

本日欠席なんですけれども、長崎委員、馬場委員、大西委員、比留間委員の方から欠席ということでご連絡をいただいております。

教育部長の村田の方が本日同席させていただく予定になっておりますけれども、少し遅れてくるという風になっております。

後、資料の確認です。本日の次第といたしましては、机上に置かせていただいております。事前の送付資料になります。A3のパブリックコメントのご意見と市の回答及び意見反映シートというもの、あと見え消しになっております計画案、参考資料としてパブリックコメントの個人情報だけ消した原文を参考資料としてお渡ししております。お忘れになった方はいらっしゃいますでしょうか。

後、本日は傍聴の希望があるようですので、もしよろしければ傍聴の方に入っていただくという形にしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

それでは委員長の方、よろしく願いいたします。

(委員長)

皆様おはようございます。今年度最後の会になります。よろしく願いいたします。

パブリックコメントをいただいておりますので、パブリックコメントをもとに、第6次日野市特別支援教育推進計画のまとめができればと思っておりますのでご協力の方をよろしく願いいたします。

それではまず最初に、パブリックコメントについて事務局の方からご説明よろしく願いいたします。

(事務局)

発達・教育支援課長萩原でございます。よろしく願いいたします。着座にてご説明させていただきます。

パブリックコメントについてでございます。A3の大きいものをご覧いただきつつ、まずパブリックコメントの受付等の状況についてご説明をさせていただきます。第6次日野市特別支援教育推進計画のパブリックコメントを、令和4年12月1日から令和5年1月4日まで実施いたしました。周知の方法といたしましては、広報日野12月号、ホームページ、また資料の閲覧を本庁舎学校課・七生支所・豊田駅連絡所・市内各図書館・そしてエールの方で実施させていただきました。また学校のシーフォースホーム安堵スクールの方で小中学校の保護者の皆様へのご周知もさせていただきました。結果でございますが、意見をいただいた数が団体として1、日野市生活者ネットワークの方からいただきました。そのほかは個

人で、13人の方にいただいております。意見の数といたしましては、61件となっております。このカウントの仕方がなかなか難しいところではあったんですが、私どもの方で回答する必要があるという風に思われたところの意見の数を併せたものになります。また参考に、第5次の日野市特別支援教育策定時のパブコメの結果は、意見者数が5人で、意見数が16件でございました。

それではパブリックコメントのご意見につきましての内容と市の回答、それから計画書への反映の方針についてご説明をいたします。A3の横長の資料をご覧ください。まず表の見方ですが、通し番号がついておりまして、ご意見の趣旨、いただいたご意見をまとめさせていただいてそこに載せております。また、市のそれに対する回答、そして計画書への反映方針について記載しております。今回61件と件数が多いため、全部のご説明をしている時間はないというところがございますので、計画書へ反映したものについてをご説明させていただきたいと思っております。計画書への繁栄は、同じご意見等のものも合わせまして12件という風になっております。

それではまず通し番号の2、困りごとを抱えた児童が安心して学校生活を送れるよう、学級支援員の配置を充足するとともに、研修制度を充実することというご意見でした。この他に、学級支援員ですとかあるいは学校の中に大人の見守りの数を増やしてほしいなどというご意見が6件ございました。こちらにつきまして市の回答でございます。まず学校を支える仕組みと、その仕組みを動かすために必要な職種の人がたくさんおります。子どもへの支援というのは、単に支援員の数を増やすことだけが最適解とは限らないという風に意識をしております。保護者もふくめ、チーム学校として連携することで、子どもたちの安心安全と個別最適な学びの提供をしっかりと行えるように取り組んでまいります。また研修につきましては、検討をしておりますということで、こちらは推進目標の中にも入れ込んでおります。また教員をサポートする人材につきましては、ボランティアの活用も含めて検討しております。市の回答を要約させていただきましたが、このような回答をさせていただきます。また計画書への反映でございますが、第4章推進目標1、(4)に追記をしております。この項目につきましては、第5次には入れておりまして、第6次当初は削除してはいたのですが、改めて追加させていただきます。計画案の詳細な場所ですとか、どういう追記をしたかというところにつきましては、後程まとめて説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

続きまして、通し番号11番になります。こちらにつきましてはやり取りとしては文言整理等についてが主のご意見でございました。ご意見の一部につきましては他の要望や計画等との整合性を図るため修正はしないという風にいたします。ただそれ以外は修正すべきと判断いたしましたので、変更させていただきます。

11番につきましては長くなっておりますので、EXCELの処理の関係で3つに分けて載せさせていただきます。ご了承ください。

続きまして、少し飛んで通し番号28、「医療的ケア児への対応」について福祉部署等と共同

体での推進体制を構築してほしい、また医ケア児の支援法について触れていないということがありました。これは 28 と、そのほかに 50 の通し番号のところも同様の内容でしたので、まとめさせていただきます。こちらにつきましては、回答につきましては障害福祉課が事務局となっています、医療的ケア児等支援協議会へ参加をさせていただいていること、またその協議会と連携しながら福祉教育の側での会議体の設置やガイドラインの作成などの推進体制を図っていきますということ、それから医療的ケア児の支援法については今回 6 次体制の中に、入れ込んでいないということがわかりましたので、これについては加筆すべきという風に判断いたしましたので計画の中に入れさせていただきます。こちらは第 3 章の中の特別支援教育の課題のところに入れさせていただきます。医療的ケア児は施策の中にはいろいろ入れさせていただいていたんですが、それを行うための課題というところには入っておりませんでしたのでそれを入れさせていただくという形になります。

続きまして、通し番号 34 番、個別の指導計画と、かしのきシートの違いが分かりにくいといったご意見がございました。このほかにもかしのきシートについては、いろいろご意見をいただいたところがございます。こちらの回答につきましては、個別の指導計画と、かしのきシートの関係性について、教員への啓発、保護者への丁寧な説明に務めてまいりますという回答をさせていただいております。また計画書への繁栄につきましては、かしのきシートについてよりわかりやすいように文言整理を行わせていただきました。

続きまして、通し番号 46 番、潜在的に支援を必要とする児童・生徒に対応するための指導体制の充実のための教員は足りているか、国が知的・発達に遅れはないが学習面・行動面で著しい困難を示すとされた児童・生徒の割合は推定値で 6.5%と言っている背景を知りたいというご意見がございました。こちらの回答につきましては、教員は一につきましては東京都の担当であり、市独自で対応できない部分もありますが、全国的に教員不足が報じられており日野市でも例外でないという風に認識しております。限られた人員の中で特別支援教育の充実を図るべく、計画に沿って研修等の充実を図ってまいります。それから、特別支援教室に通う児童・生徒数の増加は日野市だけではなく全国的な傾向でございます。令和 4 年 12 月、文部科学省が発表した通常の学校に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に対する調査の内容を計画に反映させていただきますというところで回答させていただきました。こちら計画書への反映につきましては、第 3 章 2 のところに国と都の調査のところに文科省の発表内容を反映させていただきます。

今大きくまとめさせていただいた 5 件、意見 12 件分が計画の変更になります。また、その他ですが、計画の変更はないものですがいただいているご意見として、かしのきシートが積極的に活用されていない、母子手帳の記録のように活用できるのが理想だというご意見ですとか、またエールへのご意見もいただいています。心理相談がただの親の気持ちを話す場所になっている、支援方法や解決策が改善されない、学校の外での学びの場や居場所の充実、エールに不登校向けのフリースクールや放課後デイサービスなどを置いてほしいということも検討してほしいというご意見をいただきました。

それから、私どもで1つ、これは今後のことも含めてきちんとしていかなければならないということで、39でございます。前回の第5次のパブコメの回答にあったことが検討されていないというご意見をいただきました。これにつきましては、第5次のパブリックコメントで学校の先生方へのアンケートをぜひ実施してほしいというご意見がありました。それに対して事務局側の方で第6次の計画策定の際にはこれを利用していきたいということで当時の回答をしているのですが、こちらについて私ども第6次の検討の際にこのことを入れておりませんでした。教職員向けに関しましては、私どももエールで学校の訪問ですとか教職員向けの研修等の質疑応答などを通しまして、支援者の目線からの意見を収集しているところでございますが、今回いただいた意見につきましては私どもでも委員の皆様にご改めとお伺いするべきだったという風に考えております。市民の皆様のご期待に沿えるよう、真摯に向き合っておりますということで回答を作らせていただきました。

今回のパブリックコメントについては、いただいたご意見の多くは、計画を変更または修正することではなく、市教育委員会ですとか学校に向けて、特別な支援を必要とする児童・生徒やその保護者の思い・考えていることなどをぜひ理解してほしいという気持ちを表したものという風に感じました。またご意見は第6次の日野市特別支援教育推進計画を進めて行くための様々な施策の実施内容にぜひ盛り込んでいくべきという風に考えて、参考にしてみたいという風に思っております。

パブリックコメントへの回答や計画への反映方針につきましてはの説明は以上でございます。今私が説明した内容を計画の方に反映させたところにつきましては、この後吉沢の方からご説明をさせていただきます。

(委員長)

ここでいったんご意見いただきますか。

(事務局)

続けさせていただきます。

(委員長)

では続けて、推進計画の方をよろしくお願いたします。

(事務局)

発達・教育支援課課長補佐の吉沢と申します。よろしくお願いたします。

資料の方、計画案をご覧いただければと思います。前回パブリックコメントをした際と今回で、見え消しの形でわかるような形で提示しております。

主な変更点を申し上げたいと思います。まずは5ページ目になります。第3章、1の体制整備の主に③のところになります。パブリックコメントでもかしのきシートの位置づけがわ

かりづらいというところがございます、改めて計画の方を確認しまして国の言い方と都の言い方が混じっているところがございますので、改めて整理をさせていただきました。東京都の言い方に習いまして、学校生活支援シートと個別指導計画という表記に統一をしております。

続きまして、7ページをお開き願います。7ページの(2)の特別支援学級等の設置状況なんですけども、上の四角の中、下線が引いてあるところを追記してございます。こちらはパブリックコメントのご意見ではなかったんですけども、委員の方から頂きまして追加しております。平成28年にステップ教室導入に当たって、最初にステップ教室を導入した小学校及び中学校のモデル授業につきまして追加させていただいております。

続きまして、20ページをお開きいただければと思います。パブリックコメントにもございました令和4年12月に文部科学省が発表した、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に関する調査につきまして、前回平成24年のものは記載がございましたがここで12月に新たに発表になっておりますので、その内容を入れ込んでいるという形になります。少し読ませていただきます。令和4年12月に文部科学省が発表した、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童・生徒に関する調査では、学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童・生徒の割合は推定値8.8%となっています。全体の割合では、男子が10.4%、女子が4.6%で、対象となる児童・生徒は学年が上がるにつれて減り、小学校第1学年では12%ですが、中学校第3学年では4.2%という結果になっています。平成24年調査からの増加の理由について、増加の理由を特定することは困難であるが、通常の学級の担任を含む教師や保護者の特別支援教育に対する理解が進み、今まで見過ごされてきた困難のある子どもたちにより目を向けるようになったということが理由の1つとして考えられる、そのほか普段から1日1時間以上テレビゲームをする児童・生徒数の割合が増加傾向にあることや、新聞を読んでいる児童・生徒数の割合が減少傾向にあることなど、言葉や文字に触れる機会が減少していること、インターネットやスマートフォンが身近になったことなど、対面での会話が減少傾向にあることや、体験活動の減少などの影響も可能性として考えられるとしています、という文章を追記させていただきました。

続きまして、34ページをお開き願います。これは特別支援教育の課題となっているところでして、11番として医療的ケア児への対応というところを入れさせていただいております。近年学校に在籍する医療的ケア児数は年々増加するとともに、人工呼吸器による呼吸管理等を必要とする医療的ケア児が学校に通うことになるなど、医療的ケア児を取り巻く環境が変わりつつあります。また令和3年9月に、医療的ケア児およびその家族に対する支援の法律が施行されました。この法律では地方公共団体は、医療的ケア児に対して教育を行う体制の拡充等を図ることが求められています。これらの状況から、学校における医療的ケアの体制整備に取り組む必要がありますという文言を追記させていただいております。

続きまして、37ページをお開きください。推進目標1の(4)、校内委員会を中心とした学校における指導体制の充実のところの一番下の部分、特別に配慮が必要な児童・生徒に対し引

き続き学級支援員・介助員の適正配置を目指しますという文言を追記させていただきました。

その他細かい文言修正がございましたが、主なところは以上でございます。

(委員長)

パブリックコメントをいただいた中で、推進計画に反映した部分をご説明いただきました。ご説明させていただいたところを検討させていただきたいと思いますので、パブリックコメントと合わせてご確認いただきたいと思います。

まず推進計画案の 5 ページの③のところを少しわかりやすいようにということで、国や都の文言と合わせるような形で修正しましたというところですが、この③のところでは何かご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

この文言整理のところはよろしいでしょうか。たぶんこれですっきりとして進められるのではないかなと思います。

それでは 7 ページのところは、ここはステップ教室の導入段階のところを追記しましたということですので、こちらの方はよろしいでしょうか。ここありますでしょうか。

それでは、20 ページの方に行きたいと思います。国と都調査の文言のところ、令和 4 年 12 月に発表されたことを入れて文言を変えたということですが、こちらの方でご意見ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(委員)

そのまま記載されているんですね。

(委員)

そうですね。大丈夫でしょうか。他に何か大丈夫ですか。

先に進めさせていただきます。34 ページの医療的ケア児への対応というところで、パブリックコメントいただいて課題のところを入れましたということですが、こちらの方がいいでしょうか。大丈夫でしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、37 ページのところ、をご覧ください。(4)校内委員会を中心とした学校における支援体制の充実というところで、一番最後のところに、学級支援員の適正配置をめざすということを入れましたということで、よろしいでしょうか。

事務局の方から、パブリックコメントに合わせて修正した個所をご説明いただきましたが、今日推進計画の最後になりますのでここでご意見をいただいてということになります。何かご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

(委員)

ご意見というか 41 ページなんですけども、41 ページの(2)の令和 6 年 4 月というような表

記があるんですけど、令和6年初旬、これ表記の仕方を子家センに確認してもらいたいと思
いまして。

(事務局)

わかりました。

(委員長)

ここの開設の予定のところはもう一度確認していただいて。他にありますでしょうか。

(委員)

七生特別支援学校黒沢です。

34 ページの(11)の医療的ケアのところですけども、他の項目については具体的な課題とい
うことで四角いボックスが各項目ごとにあるんだけど、ここは例があれば何か課題とい
うことであった方が、これからこの件についてはやはりどんどん進んでいく課題だと思
いますので、そういう風に思います。よろしく願いいたします。

(委員長)

事務局の方がいかがでしょうか。ここの医療的ケア児の対応については他のところと比べて、
ほかのところはきちんと課題を明確に上げているんですが、ここのところがないので、今後
必要になってくるということを入れていただきたいということですが。

(事務局)

ありがとうございます。

実際の取り組みの方で協議体を設置するだとか、ガイドラインを作成するという具体的な
目標を挙げているので、それに対応する形で課題の方も現状ではできていないというこ
とで、課題というところでボックスという形で追記させていただけたらなと思います。

(委員)

それで結構だと思います。

(委員長)

よろしく願いいたします。他によろしいでしょうか。諸星委員。

(委員)

意見に当たると思うんですけど、学級支援員の増員であったり計画についてのパブリック
コメント、6件ということだったんですけど、保護者側の体感としてこの話が非常に最近、

別件ですけど請願書を保護者の方から教育委員に提出されたという話も伺いまして、計画の中では各校の課題とか計画にあたるものだと思っておりますけど、行政側も含めてもう少し保護者にこういった支援員の増員についてお話をしたりご意見をうかがえるような機会が設けられるとありがたいです。

どうしても学校から保護者への説明みたいな話で案内されてしまう機会が多いので、学校だけの課題ではないかなと思っております。

(委員長)

この学級支援員については学校・保護者はもちろんですけど、関係の期間のところも含めて検討する場があるといいんじゃないかというご意見ですよ。

(委員)

そうですね。

(委員長)

そういうご意見をいただきましたので。

(事務局)

事務局です。ありがとうございます。

学級支援に関しましては、先日教育委員会の方に請願が出されました。それに関しては不採用という形にはなりました。

ただ私どもも、学級支援員については日頃からご意見をいただいているので、これについては検討をいろいろさせていただいているところではありますが、請願の際にお話はさせていただいておりますが、学級支援員のみを増やすというところだけではないというのが考え方でもあります。学級支援員を増やすだけではないという風に思っております。いろいろなもののバランスというところもあるかと思っておりますので、その辺も含め我々も検討して行きますし、その際には保護者の皆様にもご意見を伺っていきたいという風に考えておりますのでよろしく願いいたします。

(委員長)

このような回答でよろしいでしょうか。

(委員)

ありがとうございます。

(委員長)

第 6 次でもこちらの方入っていますので、今後また推進委員会の方でも検討していくという形になるかと思います。他にご意見よろしいでしょうか。

(委員)

特別支援学級の代表をします、阿部と申します。

このかしのきシートなんですけども、先日印刷していただけるということでお話があって、私、子どもが6年生なんですけど、小学校に上がる時かしのきシートを作って、それで作っていてその後見たことがなかったので、吉沢さんをお願いして印刷して手元にいただきました。それをもって中学校の担任の先生とお話をして、この子はこうですよっていうことを直接運営していきたいなという風に思っています。

そういうことで、かしのきシートがしっかり保護者のかたに印刷できるということをもうすこしうまく表現できるといいなという風に思いました。12 ページに書いてあるんですけど、運営してますというところだけなので、何かプラスアルファ等の文言があればいいなと私は感じました。

そうは言っても、エールに皆さんが行って印刷してくださいって言ったらエールもパンクするでしょうから、そこはうまくバランスを取っていただいた方がよろしいかなという風に思いました。以上です。

(委員長)

ありがとうございました。

かしのきシートについての活用、保護者への印刷等を含めてというところなんですけど、12 ページにもそういう文言が少し入るとわかりやすいかなというところですがいかがでしょうか、事務局の方。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

ちょっと今、具体的にどう書きますというところまではお話しできないんですけども、今おっしゃられた趣旨のところでもわかりやすい感じになるように少し文言の方を修正させていただければなと思います。

(委員長)

他によろしいでしょうか、かしのきシート等が今出ていますが、よろしいでしょうか、小貫先生何かご意見あれば。

高原委員、何かありますか。

(委員)

1点だけ、国とかそういうところの動向なんですけども、国連が日本政府に対して勧告をしたと、特別支援教育、という部分の表記はどこかに記載した方がいいのかなと今思いましたので記載した方がいいという判断であればどこかに記載していただければと思います。必要ないということであれば結構です。

(委員長)

今国連の方からの日本のインクルーシブ教育ということに対するご意見があったんですが、何かご意見ありますでしょうか。

(委員)

これは日野市では課題になってますか。他市の教育委員会から問い合わせがあって、議会で質問があったということで、その自治体はその自治体の教育委員会としての方針を示したというようなかわりを持ったことがございますけど、日野市はこの問題について一定の方向性についての結論をお出しになられているかどうか。

(委員)

教育委員会はわかりませんが、市として何かこの勧告を受けて一定の方向性を出したらという、福祉分野として何か出しているっていうことはないと思います。

(委員)

議会で話題になったこともないですか。

(委員)

議会の一般質問等では所々でフレーズが出ていることは確かあったかと思います。

(委員)

おそらくどこの自治体も必ず話題に、論議はあったはずです。それに沿う形で考えていけたら、ここのレベルですから。

(委員)

この2ページ3ページ辺りに動きとして記載した方がいいのかなと今思いましたので、提起させていただきました。

(委員)

おっしゃる通りです。どこも触れていない自治体はないと思いますけど。

(委員長)

今ご意見いただきましたけどいかがでしょうか。宮崎先生。

(委員)

私は何かの形で触れたらいいかなと思います。いろんな人に話を聞くと、様々な意見がありますね。

そういうことでどちらかに偏った選考をする形ではなく、市としてどう考えているかというのをきちんと書いてもらえればなど。

(委員長)

この推進計画案にもということですね。いかがでしょうか、市としての考えをということもありませんけど。

(事務局)

事務局です。ご意見ありがとうございました。

確かにそういう部分っていうところはあるかなという風に思います。また教育委員会の中で検討させていただいたうえで、今おっしゃっていただいた計画の内容の中含め冒頭の計画、場所としてがいいのかなという風に思いますので、そちらの方意見まとめた形で入れさせていただくようにいたします。また、これに関しては委員の皆様にもお示しさせていただいて、確認させていただければという風に思っておりますのでよろしく願いいたします。

(委員長)

それでは教育委員会の方とも検討して、1度まとめていただけるということになりましたのでまた後日委員の皆様にはこのところはいただけると思いますのでご覧いただいてまたご意見を出していただければと思います。

他に何かありますでしょうか、検討しておくこととか。本日が採集になりますので、これが来年度からの第6次の日野市の特別支援教育推進に関わってきますので、ぜひこの場でご意見いただければという風に思います。

(副委員長)

ちょっと質問で、7ページの特別支援教室のスタートのところなんですけど、28年度以降に8小からスタートしたところの次で、特別支援教育を導入し中学校では日野3中と日野2中がなんかモデルでかかわってなかったかなと思って、意外と市P協のところのステップの教員が行って話したことがあって、たぶん拠点のモデルで平成28年に。

(委員)

拠点は2中がやっています。

(副委員長)

2中に加わってたんだと思うんですけど、ちょっと確認していただいて。

出だしが2中で、男性2名がいて、初め拠点校の4中に行ったりとか、七生中に行ったり動いていて、市の方にもいろんな場面で。

(委員)

これね、ちょっとごめんなさい。ちゃんと読んでなかったんですけど、モデル事業は全校でやったんですよ。八校一緒なんです。

(副委員長)

出だしが。

(委員)

出だしは2中が中心になってるかと思います。

(副委員長)

ここ3中になっていて。

(委員)

そうですね。

(副委員長)

3中になってたのかもしれないですけど、2中の2人が研修に行かせていただいて、それを市に持ってきていただいて反映させていただいたケースがあったので、こここのところをちょっと確認させていただければなと思って。

(委員)

2中のモデルは日野市が都のモデル地区指定を受けて、2中なんですよ。

狛江と墨田と日野市、それでどこのことを言ってるのか。都は日野市をモデル地区として指名し、実際に運用したのは2中でのスタートですよ。

(委員)

中心になってたのはそうなんですけど、やってたのは全部なんですよ。なのでちょっと違いますね、確かに。

(副委員長)

ちょっと確認だけ、記憶があいまいなのもあって。

(委員長)

こちらのところまた確認していただいてもよろしいでしょうか。よろしくお願ひします。

他によろしいでしょうか。

特に今日のところでのご意見がないようでしたら。宮崎先生。

(委員)

日のスタンダードの研究と実践、研究成果の共有化っていうところが、文科省で研究した最後の小学校つまりき解消実践事例集っていうところで、特別支援としての研究はここで区切りなんですけど、共有化っていうのはそのことを言ってるんですかね、その先もありますよね日野市は、個別最適化というようなことも取り組んでるし、インクルージョンの東京都の研究もしているんですけど、その辺を何かどこかで表現することはなかったなって思ったんですけど。

(委員長)

すみません、そこ何ページですか。

(委員)

何ページかはわからないんですけど、10 ページに研究成果の共有化っていうところがありますね。これは令和3年までになってるんですよ。

ここで共有化もだけど、共有化だけじゃないかなって思ったときに、今日野市は個別最適化の授業のこの研究だとか、インクルージョンの七生特別支援学校と一緒にした取り組みだとかもありますよね。その辺も共有していかないといけないことかなとは思ったので。

(委員長)

現状と課題のところですので、七生特別支援学校とあと3中のインクルージョンの研究もここには入ってきますね。

この成果というのもここに入れてはどうかということ、ギガスクールと重ねて個別最適な学びと協同的な学びというところが各校で進められているところの文言をどこかに入れた方がいいのではないかというご意見をいただきました。今までの現状というところなんですけど、10ページに追加するということですがいかがでしょうか。

(事務局)

事務局です。別立ての項目かもしれないので、そこは中で整理させていただいた上で載せさせていただきますようにします。

(委員長)

3年間ですかね、インクルージョンの研究。

(委員)

3年間です。

(委員長)

3年間ですよ。その研究をして成果等もあるかと思imasので、確認していただければと思います。他によろしいでしょうか。

今日いくつかご意見いただきましたので、また推進計画の方追記等ありましたので、委員のほうに送っていただければと思います。特にこのパブリックコメントと推進計画について個別のご質問等、ご意見等ないでしょうか。よろしいでしょうか。

ここまで4回通して検討を重ねてまいりましたが、全体を通して最後にお1人一言ずついただければと思いますので、諸星委員の方からよろしく願いいたします。

(委員)

今回参加させていただいてありがとうございました。

私は市Pから選任いただいた形なんですけど、保護者のパブリックコメントでいろいろご意見いただいているところ、共感できることもあります。当然ながら推進計画に反映しきれない細かい話もあるとおもうんですけど、そういったものは取りまとめたうえで学校ですとかそういうところと相談させていただきたいと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。

(委員)

阿部です。パブリックコメントのご意見を私も見させていただいて、いろんな考えがあるなと思ったのは正直なところ。なかなか公のコメントというのを読む機会は、普通の会社にいたら読めないところがあるので、大変勉強になったかなと思います。

私ども少年学級親の会なんですけども、こちらの方も皆さん暖かい目で見いただければなと思います。よろしく願いします。

(委員)

私は特別支援教育総合コーディネーターという仕事をしているんですけど、名ばかりな委員だなんて思って振り返っています。

ただ今回、大変たくさんのご意見をいただいて周知を広げることができたのかなということが1つ良かったことという風にとらえています。

このたくさん意見の全部にこたえることはできないんですけども、できることを努力し、誤解があるところも説明が足りないところもたくさんあると感じましたので、説明をしていかなければなって思いました。それから、当然時代が変わっていくので小貫先生などたくさん提案をしてくださったんですけど、パブリックコメントではないですけど、時代とともに変えていかなきゃいけない部分がたくさんあると思いますので、ぜひお力を貸していただきたいなという風に思います。ありがとうございます。

(委員)

今年度の計画の一番の変更点は、3年に1回の見直しということはずっと続けてきた第5次までと違って、第6次は5年間という、子どもにとっては相当長い、1年生が5年生になるっていうことですね。3年に1回だったら義務教育9年間で3回の見直しがあるので時代にいろいろ変更できるというような、義務教育の年限との違いというようなことで、行政の都合もあると思いますので、5年ということになりましたので、それがうまく進んでいかれるということを見守らせていただきたいというか、私は皆さんとちょっと違った立場で現場のいろいろなお苦労と寄り添うような形で年間何十回も現場に行くというような形になるものですから、ご指摘事項がちょっと温度差といいますか、皆さんとなかなか共感を得られなかったんだなっていう気も致しますけど、目の前でいろいろ苦しんでいる子どもたちを毎日見ていると、あぁいった指摘になるということで、ご理解とご容赦いただければという風に思っております。以上です。

(委員)

黒澤です。1年間お世話になりました。ありがとうございます。この推進計画に関わらせていただいて、勉強させていただいたところもあります。

また学校という立場で言うと、日野市とはセンター校としていろいろな形で今後も関わっていくこととなります。

その中で私が一番感じているのは、人材の育成だなという風に思っています。これは特別支援学校においても同様で、若い人たちがどんどん入ってきてはいますが、やはり専門性というところではまだまだ経験不足ということもあります。市の方も同様な状況があるのではないかなと思います。

できるだけセンター校としての役割を果たしながら、特別支援教育を盛り上げていけたらなと思いますので、今後もよろしくおねがいたします。以上です。

(委員)

高原です。1年間お世話になりました。ありがとうございます。

障害福祉課として参加をさせていただきました。エールの方とは特別支援教育に関わらず、いろいろな形で連携を取っていく部署だと思っています。この計画についても、今回は特別支援教育の計画ということで、われわれも来年障害者6か年計画の策定になります。計画を作るということが目的ではなくて、その先で必ずどういう計画につなげていくかという部分がついてまいりますので、連携を取りながらやっていきたいなという風に思います。ありがとうございました。

(委員)

委員の皆様には、たくさん活発なご意見を出していただきありがとうございます。パブリックコメントで多くの市民の皆様からご意見を寄せていただきました。前回の計画の策定時と比較すると、かなり多くのご意見があったのかなという風に思います。先ほどお話ありましたように計画期間を5年間といたしましたけども、国でしたり東京都の動きというのは今後加速といたしますか、いろいろな展開が予測されるかなという風にも思いますので、中間の見直しというのが非常に重要になるということで、今後の推進体制、推進委員会の中での議論というのも重要になってくると思いますので引き続きよろしくお願ひしたいなと思います。ありがとうございました。

(副委員長)

三沢中学校石川です。1年間いろいろとお世話になりました。やはり中学校に入学してくる子どもたちも、いろいろと特別な支援が必要だったり小学校で情報を聞いてはいるんですけど、受け入れとして非常にいろいろな場面で対応が必要な場面が多かったです。職員もパブリックコメントにありましたけど、やはり特別支援教育の理解ということで、三沢中学校もそうですけど、ほかの中学校でも研修を4月にいろいろな、ステップ教員を使ったり特別支援関係の講師を招いて研修をして、日野としては特別支援教育を第1に考えてってということで進めていますけど、やはり移動で他地区から来る教員ではまだまだってところがあります。そしてインクルーシブ教育でいろいろな対応をできないときはできないって言いますが、本当にこの子にとっていい形でってことで教員にも寄り添ってっていう形で行っています。後、かしのきシートも高校へつなげる形がだいぶ多くなっていきましたので、保護者とのやり取りも、ちゃんと送っていますからこういうところを見てもらえるように伝えてますよってところで保護者との連携も取れるような形になっていますので、この辺もしっかりやっていきたいと思ひますし、先ほどから出ていますけどやはり5年になったってことで特別支援教育が年々変わっているところがあるので、毎年見直しとか次に向けてってことで進めて行かれたらいいと思ひますのでまたよろしくおねがいたします。以

上です。

(事務局)

皆様1年間ありがとうございました。

保護者の皆様のアンケートでしたり、今回のパブリックコメントということで、広くいろいろな意見をいただきながらこのような形になりました。ありがとうございます。

計画期間のお話も出ているんですけども、これは計画を作って進めて行くっていうことが大切であって、1年ごとの進行管理、こういう形で進めて行こうという目標も設定しておりますので、着実に1歩1歩進んで振り返って、そして5年間っていうことなんですけども中間の見直しというところもしっかり位置づけさせていただきましたので、世の中の動きがたいへん早くなっているというのがありますし、学校だけではなく、行政だけではなくということの皆様のご意見も伺いながらより良い教育を進めて行きたいと思えます。

ぜひ引き続きご意見いただければと思います。どうもありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。

それでは今日が最後の会になります。第5次の時の1年ごとの検証というのがパブリックコメントの中にもありましたけど、こういうものがきちんとされていないんじゃないかというご意見がありました。第6次は年度ごとの目標というか計画が出ていますので、来年度以降は推進計画の中できちんと1つ1つ丁寧に検証しながら、またより良い日野市としての特別支援教育を進めて行ければいいなという風に思っています。

学校現場でも今は学校だけで何かできるという時代ではありません。保護者もそうですし、地域もそうですし、行政のいろいろな立場の方から応援をいただきながら学校も進めているところですので、今後もいろいろなところと連携しながら特別支援教育もそうですけど、いろいろな場で連携してお力をいただきながら進めて行ければという風に思っています。

この4回までに本当に委員の方々から今回多くのご意見をいただきましたし、また市民の方々からも特別支援教育のパブリックコメントということで本当に大きな関心があるんだなということを実感していますので、また学校としても進めてまいりたいと思えますので、どうぞまたご協力の方よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

最後に今後の対応について、事務局の方からよろしくお願ひいたします。

(事務局)

ありがとうございました。今後の対応につきましてお話をさせていただきます。

こちらで議題については終わりましたので、傍聴いただいた方についてはご退出いただくということでお願ひいたします。

改めまして、今後の対応につきまして確認させていただきます。

本日もご意見ですとか修正点ありましたので、集まる機会というのは今日が最後になりますので、恐縮ですけれども今後についてはメールの方で修正事項等送らせていただきましてご確認等していただければなという風に思います。

その他今後発生する軽微な文言ですとか体裁等につきまして修正があった場合には、事務局の方に一任していただければなと思います。

この第6次の日野市特別支援教育推進計画策定委員会の協議及び検討結果につきましては、推進計画（案）とともに、教育長にご報告をさせていただきます。その後推進計画につきましては3月の教育委員会にて議案として審議させていただく予定になっております。

推進計画の策定後は、市長等理事者に報告した後、印刷して冊子にして、4月ごろ各委員の皆様には送付する予定になっております。また冊子につきましては、市立の幼稚園、小中学校、特別支援学校、市議会議員などに配布し、PDFデータにつきましてはホームページにアップする予定になっております。

今後の予定につきましては以上になります。

（委員長）

それでは事務局の方にお返しします。

（事務局）

どうもありがとうございました。

この1年間、スタートから私どももどのようにしていくか、一番大きかったのは先ほども小貫委員がおっしゃっていましたが3年から5年に変更することについては私ども悩んだところでもあります、私どもの意見を通させていただいたということもございませう。ありがとうございました。

ただしそれは今後の見直し等をしっかりやっていくってところは必ずやっていかなければいけないところもございませうのでその部分、それから進行管理についてパブリックコメントにもご意見ありましたが、その部分は今まで記録として残していない部分もありましたので、そのあたりもしっかりやらせていただきたいと思っています。

1年間お忙しい中この委員会にお集まりをいただきまして、ご参加いただき、また様々なご意見をいただき、皆様ありがとうございました。また委員長を務めていただきました山口校長、副委員長の石川校長にもいろいろとご意見いただきながらやらせていただき、ありがとうございました。また、学校の場所の提供も併せてしていただきまして本当にありがとうございました。

また機会がございましたらこのような会議、また市へのご意見等いただければと思っています。どうもありがとうございました。

これで閉めさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。